

## 開催趣旨

本研究集会は、日本帝国下の高等教育のありかたを、東アジア史の文脈のなかで歴史的に再検討することを目的としている。近年の歴史研究においては、帝国史研究はもっとも盛んに研究が進められている分野であり、帝国と学知との関連についても、さまざまな業績が刊行されている。しかしながら、そこには未開拓な領域も存在する。日本帝国下の植民地大学の研究はそのひとつである。たしかに、これまでの研究では、大学史、思想史、学説史など個別的な領域で植民地大学について言及したものは少なかったが、それらを相互に関連づけながら植民地大学の全体像を描こうとした試みは少なかった。また、日本の研究状況を東アジア諸地域のそれと比較検討することも、十分なされてきたとはいえない。

本研究集会では、このような研究の進展を踏まえ、東アジアの諸地域で第一線の研究者を招請し、日本の植民地大学の制度、学知、機能、遺産について研究報告と討論を重ねることで、研究状況の再確認と新たな課題を提示するものである。そのことにより、東アジアにおける学問的共同体のありかたについて、なにがしかの示唆を与えるよう、努めたい。

また、植民地大学の生み出した学知を掘り返すことで、日本の植民地支配に関わる歴史的資料についても新たな知見を得られると期待できることから、本研究集会は、人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事業」の一環としても位置づけられている。

酒井哲哉